

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-53C	12-069	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
<b>題名 (原題/訳)</b>		
Alcohol drinking and primary liver cancer: a pooled analysis of four Japanese cohort studies 飲酒と初期肝臓癌－日本の4コホート研究における統合解析		
<b>執筆者</b>		
Shimazu T, Sasazuki S, Wakai K, Tamakoshi A, Tsuji I, Sugawara Y, Matsuo K, Nagata C, Mizoue T, Tanaka K, Inoue M, Tsugane S; Research Group for the Development and Evaluation of Cancer Prevention Strategies in Japan.		
<b>掲載誌</b>		
<u>Int J Cancer</u> . 2012 Jun 1;130(11):2645-53.		
<b>キーワード</b>		
肝臓癌、飲酒量 日本 コホート研究 リスク		
<b>要 旨</b>		
<b>目的：</b> 飲酒と初期肝臓癌の間のリスクの関連を検討する研究では飲酒行為を層別化するために多様なカットオフ値を用いており、各種論文発表を用いたメタ分析では正確に関連を数量評価することが難しい。さらに飲酒量と初期肝臓癌のリスクに関連した前向き研究では女性に関するデータは限定的であり、相反する結果を示したものであった。本研究ではこれらを検証し、結果を報告する。		
<b>方法：</b> 4つの母集団をもとにした前向きコホート研究のデータから174,719名(男性89,863名、女性84,856名)の被験者を対象に分析を行った。交絡因子を調整した後、飲酒による初期肝臓癌の発症に関するハザード比および95%信頼区間を算出するためにコックス比例ハザード回帰分析を用いた。それぞれの研究で算出されたハザード比を用いてメタ分析を行った。		
<b>結果：</b> 1,964,136人年におよぶ追跡調査により、804症例(男性605症例、女性199症例)の初期肝臓癌が確認された。1日23g以上のアルコールを摂取した者は男性で約半数、女性で3%であった。男性飲酒者では、非常飲者と比較した飲酒に関する多変数調整されたハザード比(95%信頼幅)は1日あたりのアルコール摂取量が0.1-22.9g、23.0-45.9g、46.0-68.9g、69.0-91.9g、92.0g以上においてそれぞれ0.88(0.57-1.36)、1.06(0.70-1.62)、1.07(0.69-1.66)、1.76(1.08-2.87)、1.66(0.98-2.82)であった(p=0.015)。女性飲酒者では、非常飲者と比較して1日23.0g以上のアルコール摂取において有意なリスクの増加(ハザード比:3.60、95%信頼幅:1.22-10.66)が確認された。		
<b>結論：</b> 日本における大規模な前向き研究における統合解析のデータが示すには、(1)男性でアルコール摂取量が1日69.0g以上と(2)女性でアルコール摂取量が1日23.0g以上にならないようにすることで、初期肝臓癌発症のリスクを減らすことができると示唆された。		